

【基本施策】

35. 公共交通機関を充実する

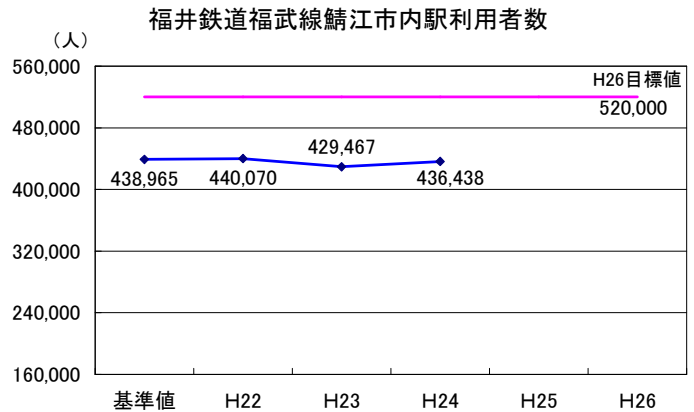
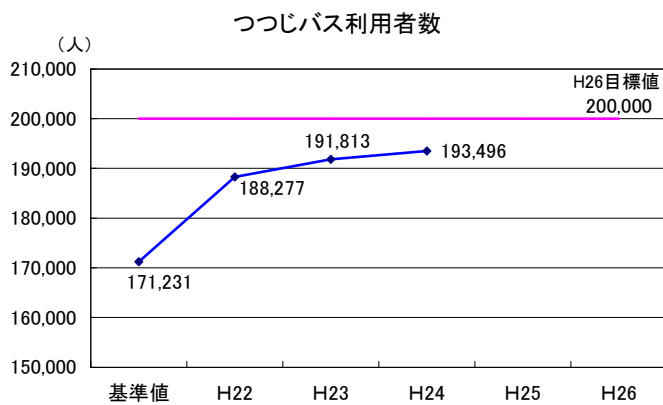
【基本方針】

つつじバスを「地域に活かされるバス」と位置づけ、環境に配慮した交通体系の確立を目指すとともにソフト・ハード両面から充実を図ります。特に高齢者の移動手段の確保と利便性の向上に重点を置き、より一層の市民ニーズに応えた市民の移動手段の確保を目指します。福井鉄道福武線については、住民の大切な公共交通機関として沿線3市が連携し、より一層の利用促進を図るとともに、ソフト・ハード両面での利便性を向上させながら平成29年度を目処に年間利用者200万人台を目指します。JRの利用促進については、鯖江駅の充実とビジネス客や観光客を中心としたJR鯖江駅乗車人数の上乗せを図り、特急列車の鯖江駅停車本数の増加を目指します。

【実施施策】

◇コミュニティバスの利用促進 ◇JRの利用促進 ◇福井鉄道福武線の利用促進

【施策成果指標】



（つつじバスの利用促進を図るための指標として、バス利用者200,000人を目指します。）

（福井鉄道福武線の利用促進を図るための指標として、市内駅利用者数520,000人を目指します。）

【構成事務事業の達成ランクおよび方向性】

基本施策	構成事務事業の状況											
	H24 ランク				H26 方向性							
	A	B	C	小計	事務改善	内容拡大	内容縮小	維持	終了	廃止休止	統合	小計
公共交通機関を充実する	4	1	0	5	0	0	0	5	0	0	0	5
コミュニティバスの利用促進	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
JRの利用促進	2	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2
福井鉄道福武線の利用促進	1	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2

これまでの取り組み成果

つつじバスは、新車両導入後順調に利用者が増加し、昨年の利用者数が、一昨年比、約1,700人増加し、過去最高の19万3,496人となった。

JRについては、毎年「鯖江市民号」を企画し利用促進を図るとともに、JR西日本金沢支社に特急列車の停車便数増加やJR鯖江駅のバリアフリー化などの要請活動を行ってきた結果、バリアフリー化については、JR西日本が平成25年度に国土交通省において事業が採択され、今年度は詳細設計を、26年度は、工事着工の予定である。

福井鉄道については、設備投資として、昨年度はサンドーム西駅ならびに鳥羽中駅の駅舎改修を行った。乗車人数としては、利用促進市民運動や、企画乗車券、新低床車両(LRT)導入などの効果で、約17万8,348人の利用者があり、一昨年と比べ約1万9,000人余、率にして約1.1%の増加となった。

今後の課題

高齢者が増える中で、今後公共交通機関の重要性が更に高まることが予想されるが、直ちに自家用車中心の生活形態を見直すことは困難な状況であるので、サービス内容の向上とあわせて、市民団体を巻き込んだ利用促進活動を通して、地道に啓発活動を継続していく。

また、平成37年度末の敦賀までの北陸新幹線開業を見据え、福井駅及び南越駅(仮称)、小松空港が重要な広域交通拠点となることから、市民の利便性を確保するためにも鯖江からの計画的なアクセス強化が必要である。

今後の施策展開

つつじバスについては、利用者のニーズにこたえるべく適宜時刻表や路線の見直しを行う。

福井鉄道の利用促進活動については、マンネリ化に陥らないよう、新たな切り口、手法を考えながら、引き続き、利用促進、啓発運動を継続的に実施する。

JRについては引き続き「鯖江市民号」を企画し利用促進を図るとともに、JR西日本金沢支社に対し、サンダード号の停車本数の拡充、五郎丸踏み切りの拡幅などの要請活動を行う。また、平成37年度末の北陸新幹線の金沢開業を見据え「鯖江市の新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会」や「福井県並行在来線対策協議会」等で今後の公共交通対策について検討していく。

【総合評価】

A 政策目標に向けて高いレベルで推移している。

B 政策目標に向けて概ね順調であるが、一部努力を要する。

C 政策目標に向けてあまり順調ではなく、一層の努力が必要である。

D 政策目標の達成には程遠く、全体的な努力が必要である。

〈H24 総合評価：A〉